

第1会場 (神戸国際展示場 2号館 1階南) ●11 / 3 (日)**●大会長講演 8:50~9:20**

生と死をめぐる葛藤を支え、あきらめずに関わる ◆255

講師：安保博文 (六甲病院 緩和ケア内科)

私と「死の臨床」

講師：松本京子 (ホームホスピス神戸なごみの家)

座長：久保山千鶴 (関本クリニック)

●シンポジウム1 9:40~11:40

不治の病に向きあう人とその家族の生と死の葛藤を支える ◆279

シンポジスト：

池永昌之 (淀川キリスト教病院)

二見典子 (いいケア研究所・訪問看護ステーションBenny's)

小西達也 (武蔵野大学)

橘 直子 (山口赤十字病院)

座長：安保博文 (六甲病院 緩和ケア内科)

杉江礼子 (市立大津市民病院 緩和ケア病棟)

総会および特別講演 13:00~14:00

【特別講演】セルフケアできてますか?~いのちと向き合うあなたへ~

高宮有介 (昭和大学医学部 医学教育学講座)

司会：三枝好幸 (桜町病院 聖ヨハネホスピス)

●シンポジウム3 14:10~16:10

進行がんの治療継続をめぐる葛藤の共有 ◆287

シンポジスト：

加藤晃史 (神奈川県立がんセンター 呼吸器内科)

西本哲郎 (神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科)

伊藤由美子 (兵庫県立がんセンター)

桜井なおみ (キャンサーソリューションズ株式会社, CSRプロジェクト)

座長：池垣淳一 (兵庫県立がんセンター 緩和ケアセンター)

藤原由佳 (神戸大学医学部附属病院)

●講演4 16:30~17:30

スピリチュアルケア：私の学び、葛藤、実践 ◆260

講師：山崎章郎 (在宅緩和ケア充実診療所 ケアタウン小平クリニック)

座長：高宮有介 (昭和大学医学部 医学教育学講座)

第2会場 (神戸国際展示場 2号館 2階) ●11 / 3 (日)**●ワークショップ1 9:40~11:10**

自己理解・他者理解をチーム医療に活かす！ ◆308

—MBTI®を用いた多様性の理解を全人的医療に繋げる

講師：豊田昌徳 (神戸大学大学院 医学研究科 腫瘍・血液内科)

●シンポジウム4 14:10~16:10

認知症のある人の症状マネジメントと意思決定支援 ◆291

シンポジスト:

鶴屋邦江 (新生病院)

西山みどり (有馬温泉病院)

小川朝生 (国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科,
国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野)

座長: 得居みのり (千葉大学大学院 看護学研究科 博士後期課程)

●講演5 16:30~17:30

自然な看取りを在宅看取り率1位の豊岡から学ぶ ◆261

講師: 山本大祐 (関西医科大学 看護学部)

豊岡市の現象から考える

講師: 大槻恭子 (ソーシャルデザインリガレッセ)

座長: 清水政克 (清水メディカルクリニック)

第3会場 (神戸国際展示場 2号館3階) ●11/3 (日)

●災害関連企画1 9:40~10:40

災害急性期からの遺族支援: 日本DMORTの取り組み ◆276

講師: 村上典子 (神戸赤十字病院 心療内科)

座長: 関本雅子 (関本クリニック)

●講演2 10:50~11:50

Autopsy imaging: 死亡時画像診断の実際とその果たす役割 ◆258

講師: 法木左近 (福井大学 医学部 腫瘍病理学)

座長: 木澤義之 (神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科)

●シンポジウム5 14:10~16:10

苦痛緩和のための鎮静と安楽死: 尊厳ある死と死ぬ権利をめぐる ◆294

シンポジスト:

稲葉一人 (中京大学)

森田達也 (聖隷三方原病院)

田代志門 (東北大学大学院 文学研究科)

田中美穂 (日本医師会総合政策研究機構)

座長: 安保博文 (六甲病院 緩和ケア内科)

●講演6 16:30~17:30

涙も笑いも、力になる一院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと ◆263

講師: 副島賢和 (昭和大学)

座長: 白山宏人 (大阪北ホームケアクリニック)

第4会場 (神戸国際会議場 メインホール) ●11 / 3 (日)**●講演1 9:40~10:40**

認知症のある人の看取り

◆257

講師：平原佐斗司 (東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所)

座長：梁 勝則 (林山クリニック)

●講演3 10:50~11:50

スピリチュアルペインをアセスメントする

◆259

講師：田村恵子 (京都大学大学院 医学研究科)

座長：柏谷優子 (辻仲病院 柏の葉 看護部(緩和ケア病棟))

●セミナー1 12:00~12:45

対話の感性と技術を磨く

◆274

講師：倉持雅代 (日本死の臨床研究会 教育研修委員)

座長：市橋正子 (MEIN HAUS 訪問看護ステーション)

●シンポジウム6 14:10~16:10

多様なグリーフケアの展開：病院、葬儀社、遺族会、保健所の取り組み

◆298

シンポジスト：

石井史子 (岡山赤十字病院 医療社会事業部)

黒川雅代子 (龍谷大学 短期大学部)

坂口幸弘 (関西学院大学 人間福祉学部)

泉原久美 (株式会社 公益社 ひだまりの会)

座長：坂口幸弘 (関西学院大学 人間福祉学部)

村上典子 (神戸赤十字病院 心療内科)

●災害関連企画2 16:30~17:30

災害とグリーフケア

◆277

講師：高木慶子 (上智大学グリーフケア研究所)

座長：関本雅子 (関本クリニック)

第5会場 (神戸国際会議場 301 (国際会議室)) ●11 / 3 (日)**●シンポジウム2 9:40~11:40**

様々な施設で最期を看取る：その現状と支援

◆283

シンポジスト：

白山宏人 (大阪北ホームケアクリニック)

山口 宰 (社会福祉法人光朔会 オリンピア, 神戸国際大学 経済学部 国際文化ビジネス観光学科)

田村 亮 (介護老人保健施設マリア・ヴィラ)

金居久美子 (特定非営利活動法人ひなた)

座長：白山宏人 (大阪北ホームケアクリニック)

市橋正子 (MEIN HAUS 訪問看護ステーション)

●事例検討9 14:10~15:10

- グループホームでの介護職と共に取り組んだ「人生会議」のプロセス ◆330
 演者：平野頼子（訪問看護ステーション はな）
 座長：神野君夫（じんのクリニック 医局）
 梅野理加（介護付き有料老人ホームかめやま）

●事例検討10 15:20~16:20

- 老老介護のなか、親の葛藤・子どもの葛藤、後悔の残る症例から
 “老夫婦を支える”病院・地域の役割とは？ ◆331
 演者：田中夏江（北アルプス医療センターあづみ病院 訪問看護ステーションあづみ）
 座長：満岡 聰（満岡内科クリニック）
 石口房子（広島・ホスピスケアをすすめる会）

●講演7 16:30~17:30

- 私が体験した父の看取りと母の看取り ◆264
 講師：森本有里（森本医院）
 座長：松本京子（ホームホスピス神戸なごみの家）

第6会場（神戸国際会議場 401+402） ●11 / 3（日）

●事例検討1 9:40~10:40

- 補完代替療法を受けていたAYA世代の患者は生と死にどう向き合ったのか。 ◆322
 医療者はなにができたのか。
 演者：大森美紀（坂出市立病院）
 座長：小杉寿文（佐賀県医療センター好生館 緩和ケア科）
 梅田 恵（昭和大学保健医療学部）

●事例検討5 10:50~11:50

- AYA世代のがん終末期患者との関わりを通して ◆326
 演者：加登岡紗矢佳（広島市立広島市民病院）
 座長：足立誠司（鳥取市立病院 地域医療総合支援センター）
 清水千世（坪井病院 看護部）

●特別事例検討1 14:10~15:40

- 同職種である若年成人患者への寄り添い方に困難を感じた1事例 ◆316
 演者：赤木亜季奈（藤枝市立総合病院）
 座長：安藤詳子（名古屋大学 大学院医学系研究科看護学専攻）
 林 章敏（聖路加国際病院緩和ケア科）

●特別事例検討4 16:00~17:30

- 母親としての役割を大切にしながらがん患者とその子どもへの治療期から看取りまでの
 サポートのあり方 ◆319
 演者：柴田麻美（福井県済生会病院）
 座長：四宮敏章（奈良県立医大附属病院 緩和ケアセンター）
 石川千夏（市立秋田総合病院 看護管理室）

第7会場 (神戸国際会議場 501) ●11 / 3 (日)**●事例検討2 9:40~10:40**

学童期から抱き続けた「死の恐怖」を連綿と語る男性の面接を通して ◆323

演者: 小杉孝子 (近畿中央呼吸器センター)

座長: 相河明規 (ケアタウン小平クリニック)

井上実穂 (四国がんセンター)

●事例検討6 10:50~11:50

リスクを負いながらも「胃から栄養をつけたい」という患者の希望と医学的適応の狭間で葛藤した1事例 ◆327

演者: 鶴澤茂代 (東京医科歯科大学医学部附属病院)

座長: 月山 淑 (和歌山県立医科大学附属病院 腫瘍センター緩和ケアセンター)

蛇口真理子 (岩手県立胆沢病院 栄養管理科)

●特別事例検討2 14:10~15:40

重症大動脈弁狭窄症で維持透析中の患者に大学病院緩和ケアチームとして意思決定支援に関わった事例 ◆317

演者: 鷹津 英 (甲南病院 緩和ケア内科)

座長: 中村陽一 (東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター)

松原貴子 (三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)

●特別事例検討5 16:00~17:30

「寄り添えない苦痛」をどう捉えるべきか—投薬拒否を続ける患者への関わり ◆320

演者: 矢野有紀 (日本赤十字社医療センター)

座長: 三木浩司 (小倉記念病院 緩和ケア・精神科)

佐々木美奈子 (新潟脳外科病院 看護部)

第8会場 (神戸国際会議場 502) ●11 / 3 (日)**●事例検討3 9:40~10:40**

生命の予後予測2ヶ月でACPを行った1事例の明と暗 ◆324

演者: 林 良彦 (へつぎ病院)

座長: 平山 功 (群馬県済生会前橋病院 緩和ケア内科)

牛坂朋美 (光ヶ丘スベルマン病院 緩和ケア病棟)

●事例検討7 10:50~11:50

呼吸困難による苦痛を抱えたまま亡くなった患者への症状緩和のあり方と元妻へのグリーフケアを考える ◆328

演者: 小川佐知子 (山口県立総合医療センター)

座長: 井手 宏 (愛知国際病院)

辻川真弓 (三重大学大学院医学系研究科看護学専攻)

●特別事例検討3 14:10~15:40

透析非導入を希望していた肺がんに罹患した慢性腎不全患者が終末期に透析開始を選択した終末期を振り返って ◆318

演者：加藤博美（南風病院）

座長：中谷玲二（洞爺温泉病院 医局）

渡會丹和子（東都大学幕張ヒューマンケア学部看護学科）

●特別事例検討6 16:00~17:30

壮年期における非がん患者の自宅看取り ◆321
—最期まで聞けなかった本人の想いと看護師の葛藤

演者：辻 良子（ひらまつ病院訪問看護ステーション）

座長：前野 宏（札幌南徳洲会病院 緩和ケア内科）

高澤洋子（淀川キリスト教病院 療養支援課）

第9会場（神戸国際会議場 504+505） ●11/3（日）

●事例検討4 9:40~10:40

笑顔を大切にし、信念としてきたA氏が選択した持続的鎮静と希望 ◆325

演者：近藤美希（聖霊病院）

座長：佐藤 健（豊橋医療センター 外科）

門林道子（日本女子大学 人間社会学部）

●事例検討8 10:50~11:50

1カ月間の鎮静が行われたがん性髄膜炎患者とその家族の関わりを支えて ◆329

演者：岩城隆二（大阪赤十字病院 緩和ケア科）

座長：星野 彰（岩手県立中部病院）

柏木夕香（新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケアセンター）

●国際交流広場 14:10~17:10

「死にゆく人とともにある」ための姿勢を育む： ◆312
GRACEプログラムを体験してみよう

シンポジスト：

藤田一照（曹洞宗）

座長：藤井義博（藤女子大学 人間生活学部食物栄養学科）

栗原幸江（がん・感染症センター都立駒込病院 緩和ケア科）

ポスター会場（神戸国際展示場 2号館 1階北） ●11/3（日）

- ポスター受付・貼付 11/3（日）9：00～11：00（4日発表の方も含む）
- ポスター展示 11/3（日）11：00～11/4（月・祝）11：50
- ポスター撤去 11/4（月・祝）12：00～14：00

Group 1-1 ポスター演題【ケアの対象／がん患者】 11：00～12：00

- 座長：秋宗美紀（彦根市立病院 緩和ケア病棟） ◆342
- 1-A-01 がん悪液質の食欲不振に影響を及ぼす因子の検討
村井美代（藤田医科大学 医学部 外科・緩和医療学講座）
- 1-A-02 家族の生活の「かたち」
宮崎浩一（嶋田病院）
- 1-A-03 患者・家族の望むケアをつなぐ看護師の役割を考える
白川律子（三豊総合病院）
- 1-A-04 直腸原発神経内分泌腫瘍の患者と家族の揺らぐ思いへの関わり
澤田真由美（苫小牧東病院）
- 1-A-05 A 大学病院におけるがん看護専門外来の患者サロンの活動報告と今後の展望
野村亜矢（獨協医科大学病院）

Group 1-2 ポスター演題【ケアの対象／家族】 11：00～12：00

- 座長：酒井和加子（薬師山病院 緩和医療連携室） ◆347
- 1-A-11 次女の看取り期に強い悲嘆を経験し、2年後に三女の看取りを余儀なくされた母親へのケア
松山智子（相良病院）
- 1-A-12 がん患者遺族の心的外傷後成長と関連要因
武富由美子（佐賀大学医学部看護学科）
- 1-A-13 息子の病状を受容できず孤立した老母との関わり
金井紀子（伊奈病院）
- 1-A-14 「病院を追い出される」と表出した終末期がん患者の妻との関わりを振り返る
宮澤知里（安曇野赤十字病院）
- 1-A-15 妻が元看護師長であることでスタッフが関わりに悩んだ1事例
—在宅看取りに向けた調整を通しての学び
中原 瞳（静岡県立静岡がんセンター）

Group 1-3 ポスター演題【ケアの場所／ホスピス・緩和ケア病棟】 11：00～12：00

- 座長：川島正裕（市立岸和田市民病院 緩和ケア内科） ◆352
- 1-B-01 A 病院緩和ケア病棟の退院調整とその問題点
西村幸祐（岐北厚生病院 緩和ケアセンター）
- 1-B-02 終末期における「食べる」ことについて緩和ケア病棟における看護師の意識調査
宮崎玉記（近藤内科病院 緩和ケア病棟）
- 1-B-03 「看護を語る会」で語られる緩和ケア病棟看護師の語り
—看護師のナラティブから見えるもの
立川奈津子（那須赤十字病院）
- 1-B-04 公立病院の再編統合によって緩和ケア病棟に起こること
橋本 淳（岡崎市立愛知病院）
- 1-B-05 あなたの願いを叶えたい—限られた時間のなかで私たちにできること
磯野恵美（たたらリハビリテーション病院 緩和ケア病棟）

- 1-B-06 看取りが近い現実を受け入れられない家族への関わり
一情報がうまく伝わらず困難と感じた事例
福田麗子（桜十字熊本東病院）

Group 1-4 ポスター演題【ケアの場所／ホスピス・緩和ケア病棟、自宅】 11:00～12:00

- 座長：飯田邦夫（協立総合病院 緩和ケア診療部） ◆355
- 1-B-07 「退院前カンファレンスに向けた基本情報」の活用により、終末期在宅療養につなげた1事例
久保伸子（恵み野病院）
- 1-B-08 「終末期がん患者と家族へのチームアプローチ」余命数日で入院した母親と家族への支援
與三野訓子（日本医科大学武蔵小杉病院 看護部）
- 1-B-09 当院でのがん患者指導料イを通した患者支援の現状と今後の課題
竹内織恵（山陽小野田市民病院）
- 1-B-10 がん診断時からの緩和ケアチームによる継続介入によって海外渡航の希望を叶えた1例
橋野陽子（市立芦屋病院）
- 1-B-11 遠方の緩和ケア病棟への転院を難しくしている要因の検討
村上真基（信州上田医療センター 緩和ケア内科）
- 1-B-12 緩和ケア病床での1事例を振り返る
川淵朱美（倉敷市立市民病院）
- 1-B-13 予期悲嘆のなかにいたA氏が重複の喪失感を行動へ変化することができた事例
星野智穂弥（れんげ訪問看護ステーション）

Group 2-1 ポスター演題【看取り／ホスピス・緩和ケア病棟】 12:00～13:00

- 座長：奥野貴史（ヴォーリス記念病院 ホスピス希望館） ◆374
- 1-E-01 持続的深い鎮静を希望していた患者を調節型鎮静で看取った1事例
大村浩之（愛知国際病院ホスピス）
- 1-E-02 がん終末期における看取りのパンフレットの使用方法についての文献検討
鈴木純子（がん研有明病院）
- 1-E-03 最期の13日間を振り返る—緩和ケア病棟でせん妄患者の拘束をやわらげて
公納 峰（鳥取生協病院）
- 1-E-04 がん治療を手放す患者の感情表出—医療者へ非難を向ける患者の背景から見えてきたもの
窪田秀子（古賀病院21 緩和ケア病棟）
- 1-E-05 終末期に家族の絆をつなぎなおす関わり—1人暮らし高齢者の再発から看取りに伴走
松岡サチ子（公立西知多総合病院 看護局）

Group 2-2 ポスター演題【看取り・その他、死の臨床を支える文化／居宅・施設など、その他、倫理・哲学】 12:00～13:00

- 座長：沖代奈央（おきしろ在宅クリニック） ◆385
- 1-E-23 「医療・福祉職者の看取り」の概念分析
浅井さおり（日本医療大学）
- 1-E-24 サービス付き高齢者向け住宅を終の地域に育てた入居者Aさん—最期まで笑顔と共に自分らしく旅立つ
穂枝由紀子（おげんきハグニティ訪問看護ステーションなないろ）
- 1-E-25 特別養護老人ホーム介護職の看取り経験と肯定的変化のプロセス
花里陽子（獨協医科大学 看護学部）

- 1-F-01 NPO 法人「ホスピスのこころ研究所」設立 1 年を振り返る
前野 宏 (札幌南徳洲会病院)

Group 2-3 ポスター演題【教育/死の臨床を支える文化/医療従事者の卒前・卒後教育, 市民活動】 12:00~13:00

- 座長：村井美代 (藤田医科大学医学部 外科・緩和医療学講座) ◆390
- 1-F-08 若者を対象とした「いのちと向き合う」場の提供による生死に対する意識変容
川竹絢子 (WAKAZO、京都大学医学部医学科6年)
- 1-G-01 リンパ浮腫研修プログラムの効果と課題
一苦痛症状に働きかける緩和ケア実践を目指した CNS の取り組み
小里裕美 (帯広第一病院 がん看護相談支援室)
- 1-G-02 歯科医療職を目指す学生の終末期医療に関する知識および意識調査
一臨床実習前の知識および意識
遠藤真美 (日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座)
- 1-G-03 デイグニティセラピーを応用した体験型学習の教育的効果
久保田千代美 (訪問看護ステーションひゅっぐりー)
- 1-G-04 単科精神科病院で勤務する看護師が抱く胃がん合併症看護の困惑や不安要因の検討
荒井春生 (修文大学看護学部 看護学科)
- 1-G-05 卒前医学教育における死に関する学修と臨床実習での看取り経験に関するアンケート調査報告と教育方略の検討
中村陽一 (東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター/東邦大学医学部 臨床腫瘍学・医学教育センター/大学病院の緩和ケアを考える会/)

Group 2-4 ポスター演題【コミュニケーション/アドバンス・ケア・プランニング, コミュニケーション】 12:00~13:00

- 座長：高世秀仁 (東久留米なごみ内科診療所) ◆396
- 1-H-07 当院緩和ケア外来におけるアドバンス・ケア・プランニング導入の試み
塩原正之 (千葉市立海浜病院)
- 1-H-08 円滑なアドバンス・ケア・プランニングに至った要因を振り返る
一病状告知後からの関わりを通して
近藤美樹 (愛知医科大学病院 看護部)
- 1-H-09 当地域の医療従事者におけるアドバンスケアプランニングの推進に関するアンケート調査
森香津子 (津島市民病院 看護局)
- 1-H-10 「もしバナゲーム」を用いた ACP ワークショップの評価—感想の質的検討
犬丸杏里 (三重大学大学院 医学系研究科)
- 1-H-11 終末期患者の心境型と対応分類に関する新しい試み
岡田公男 (東京都立多摩総合医療センター リハビリテーション科)
- 1-H-12 継続的支援を西日本豪雨災害被災支援者の支援から学んだ活動報告
小俣和穂 (あはき師 (あん摩・鍼・灸))

Group 3-1 ポスター演題【ケアの内容/症状緩和, 精神的ケア】 14:10~15:10

- 座長：進藤喜子 (市立東大阪医療センター 緩和ケアセンター) ◆360
- 1-D-01 一般病棟における終末期がん患者・家族への支援に取り組んだ 1 事例
村田朋基 (新潟大学医歯学総合病院)
- 1-D-02 緩和ケア病棟における鎮静導入の現状と課題
長戸陽子 (富山県立中央病院)

- 1-D-03 ごく軽い指圧マッサージの手技による乳がん術後の患者の症状緩和（5つのおもな症状，症例5名）
堀田智弘（松葉治療室）
- 1-D-04 漢方治療による状態の好転を契機に緩和病棟からの退院を希望し，自宅看取りとなった1事例
大前隆仁（市立芦屋病院）
- 1-D-05 緩和ケア病棟における叫びを伴うせん妄を呈した終末期がん患者への支援の1例
平澤宏卓（東海中央病院）
- 1-D-06 死に対する心の準備を支えるために必要なこと—統合失調症患者の支援を通して
山田真希（新城市民病院）
- 1-D-07 治療と就労を継続しながら両親の介護をする乳がん患者の1事例
鈴木康弘（埼玉石心会病院 心理相談科）

Group 3-2 ポスター演題【ケアの内容／社会的ケア，スピリチュアルケア】14：10～15：10

- 座長：得丸定子（上越教育大学 名誉教授） ◆364
- 1-D-08 絶縁状態にあった娘が父の看取りを行った事例からの学び
野崎乃鼓（和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 緩和ケアチーム）
- 1-D-09 ディグニティ個別音楽療法プログラム「あなたの大切なメロディー」の実施
坂下美彦（千葉県がんセンター）
- 1-D-10 G.R.A.C.Eプログラムの地域展開：沖縄での『うちなーGRACE研究会』の立ち上げと活動報告
笹良剛史（南部病院）
- 1-D-11 スピリチュアルケアの提供が保障されるホスピス体制を目指して—取り組みの経過を振り返って
丸山 寛（みどりの杜病院）

Group 3-3 ポスター演題【看取り／ホスピス・緩和ケア病棟】 14：10～15：10

- 座長：足立光生（神戸アドベンチスト病院 ホスピス病棟） ◆376
- 1-E-06 錯語がある終末期がん患者の希望を支えるための関わり—ジョイス・トラベルビーの理論を用いて振り返る
大瀧小百合（新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケア病棟）
- 1-E-07 胃がん・膵がん・肝臓がん患者の終末期に見られる吃逆発症と予後の関係
三浦 望（ときわ会病院）
- 1-E-08 緩和ケア病棟看取りケアパンフレットの作成と前後の評価
林 里佳（富山市立富山市民病院）
- 1-E-09 緩和ケア病棟の病床稼働安定に向けた5年間の取り組み報告
大橋純子（名古屋徳洲会総合病院）
- 1-E-10 在宅での看取りを可能にした要因は何か
古田瑞香（総合病院 南生協病院）
- 1-E-11 逝去後1年間における，遺族から当緩和ケア病棟スタッフへのアプローチ行動についての調査
田中桂子（がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケア科）

Group 3-4 ポスター演題【看取り／一般病棟，自宅】 14：10～15：10

- 座長：濱尾 巧（亀井病院） ◆382
- 1-E-18 新人看護師に対する指導内容の検討—終末期における酸素療法について
松本和恵（鳥取大学医学部附属病院）

- 1-E-19 療養病棟における看護師の看取りに対する意識調査 看取りのパフレット活用後の看護師の知識・意識の変化
佐藤正子 (日本海酒田リハビリテーション病院)
- 1-E-20 緩和ケアリンクナースの倫理的ジレンマの実態調査
富田 俊 (前橋赤十字病院 看護部)
- 1-E-21 持続する喀血のがん終末期患者の退院調整と自宅看取り支援における診療看護師の役割
矢尾知恵子 (河北医療財団/河北ファミリークリニック南阿佐ヶ谷/)
- 1-E-22 在宅看取りを希望した高齢者の家族への支援—終末期から臨死期における看護師の判断
市川文子 (三重北医療センターいなべ総合病院)

Group 4-1 ポスター演題【ケアの対象/家族】

15:10~16:10

- 座長：宇野さつき (新国内科医院 看護部) ◆349
- 1-A-16 フィンクの危機モデルを用いた看護の振り返り—夫の死を迎える妻への支援
柴田彩花 (鳥取市立病院)
- 1-A-17 家族ニーズに合わせた家族ケアの必要性
石川美奈 (松江市立病院)
- 1-A-18 精神疾患を抱えるがん終末期患者と家族の看護
—自宅に帰らせてあげたいという希望を支える
柏田真希 (和歌山県立医科大学附属病院 看護部 5階西病棟)
- 1-A-19 家族から医療従事者に伝えたいこと
小池宜子 (南部郷総合病院)
- 1-A-20 家族が娘を穏やかに看取ることができた 1 事例
藏光志歩 (広島市立広島市民病院)

Group 4-2 ポスター演題【ケアの体制/チームケア (病院)】

15:10~16:10

- 座長：松尾直樹 (外旭川病院 ホスピス) ◆358
- 1-C-01 緩和ケア病棟患者のリハビリテーション介入の実際
—生活リハの充実で自宅退院が達成できた 1 事例
坂本聖也 (松江市立病院)
- 1-C-02 褒めることの有効性
幸野由美子 (大分ゆふみ病院)
- 1-C-03 A 氏の生きる希望を支える緩和ケア
佐藤奈緒美 (JR札幌病院)
- 1-C-04 仏堂で行ったデスカンファレンスによるリフレクションが、看護師の思考プロセスに与えた影響
伊藤博美 (広島パークヒル病院)

Group 4-3 ポスター演題【ケアの内容/スピリチュアルケア】

15:10~16:10

- 座長：藤川晃成 (星ヶ丘医療センター 緩和ケア科) ◆366
- 1-D-12 ディグニティセラピーの参加にイラストレーションを用いた試み
山中 恵 (吉田病院 看護部)
- 1-D-13 コミュニケーションが困難な患者への関わりを振り返る—その人らしさを大切に
中島真人 (がんセンター新潟病院 緩和ケア科)
- 1-D-14 急性期病棟看護師の気持ちの分かち合いへの取り組み—患者との関わりを通して
奥谷奈美 (三田市民病院/上智大学グリーンケア研究所修了生の会/)

- 1-D-15 緩和ケア病棟におけるスピリチュアルケアの1例
竹田昌史 (公立みつき総合病院)
- 1-D-16 臨床宗教師によるケア介入で身体症状が好転した乳がん脊髄転移の1症例
原信太郎 (愛野記念病院)
- 1-D-17 告知された余命を超えて生きる患者の苦しみをどう支えるべきであったか
鈴木千春 (愛知医科大学病院看護部)

Group 4-4 ポスター演題【ケアの内容／グリーフケア】 15:10～16:10

- 座長：米虫圭子 (京都産業大学 学生相談室) ◆369
- 1-D-18 遺族ケアとして手紙を送付した遺族からの返信内容についての考察
六反勝美 (埼玉石心会病院看護部)
- 1-D-19 遺族ケアとしての「偲ぶ会」の現状と今後の課題
小笠原章子 (岩手県立磐井病院)
- 1-D-20 遺族がエンバミングをしてよかったと感じている事例 (1)
—顔の衰弱や下肢リンパ浮腫を認める症例
安西涼子 (株式会社公益社)
- 1-D-21 悲嘆のなかにある寡夫・寡婦の日常生活行動—遺族29人の語りから
西岡秀爾 (関西学院大学大学院 人間福祉研究科)
- 1-D-22 30歳代の終末期がん患者である娘をもつ母の予期的悲嘆への介入と母と娘のつながり
新田 幸 (松原アーバンクリニック)

Group 4-5 ポスター演題【死の臨床を支える文化／倫理・哲学、文学・芸術、死生観】 15:10～16:10

- 座長：川上 明 (宇治徳洲会病院 緩和ケア内科) ◆387
- 1-F-02 苦痛を伴う代替療法を行った患者家族の対応に対する看護師の倫理的ジレンマ
池松歩美 (久留米大学病院 西14階病棟)
- 1-F-03 緩和ケア病棟における能動的ディグニティ・セラピーとしての創作文学作品
蘭 潤 (協和マリナホスピタル)
- 1-F-04 死を整える 看取りの家族介護者の語りから
林美枝子 (日本医療大学)
- 1-F-05 若いうちから準備しないとたぶん上手に死ねない件、その後いかがですか？
—老病死の受容への展望と課題
太田育子 (広島市立大学国際学部)
- 1-F-06 「横の結び」と「縦の結び」と「楽しい最期」
—ハグとユーモアを添えた利用者や家族支援
岡原仁志 (おげんきクリニック)
- 1-F-07 デスカンファレンスにおける死生観の変化と臨末期ケアのレディネスへの影響について
松浦智子 (NTT東日本札幌病院)

Group 5-1 ポスター演題【ケアの対象／非がん患者】 16:10～17:10

- 座長：桑門 心 (大阪医科大学附属病院 化学療法センター) ◆344
- 1-A-06 ALSで人工呼吸療法未施行を選択した利用者と家族への関わり
浅井祐毅 (終訪問看護ステーション)

- 1-A-07 同僚から「死ぬまで呼吸困難感があったままで良かったの?」と言われ、振り返った事例
大波由香子 (調布東山病院)
- 1-A-08 A 病院緩和ケアチームにおける非がん患者への介入状況と今後の課題
佐々木牧子 (高知大学医学部附属病院 看護部)
- 1-A-09 心不全に対するスクリーニングシート導入とスクリーニング結果からみた緩和ケアの必要性
安室千鶴 (君津中央病院)
- 1-A-10 統合失調症患者の死別による悲嘆の揺れに寄り添う
上河辺愛 (清水病院)

Group 5-2 ポスター演題【ケアの内容／グリーフケア、補完・代替療法】 16:10~17:10

- 座長：白川睦子 (関西労災病院 看護部) ◆371
- 1-D-23 最期に立ち会えなかった家族のグリーフが、ディグニティセラピーにより症状緩和できた 1 例
中井真弓 (大和診療所)
- 1-D-24 遺族からの手紙による看護師のグリーフケアへの考え方の変化
藤原 倫 (北播磨総合医療センター)
- 1-D-25 診療所におけるグリーフケアの試み
田邊真由美 (第二川崎幸クリニック)
- 1-D-26 集中治療室での看取りの質について考える
—自身の体験から、家族による看取りの質について検討する
鳥井千嘉 (吉田病院)
- 1-D-27 「下肢から末梢にかけてのアロマトリートメント」の技術指導を行って
三木佐江子 (信愛病院 緩和ケア病棟)

Group 5-3 ポスター演題【看取り／ホスピス・緩和ケア病棟】 16:10~17:10

- 座長：野田隆生 (華頂短期大学 幼児教育学科) ◆379
- 1-E-12 エンゼルケアとしての入浴介助に対する看護師の思い
中井絵里 (松阪市民病院)
- 1-E-13 逝去時のケアとしての霊安室での焼香に関する職員の意識および実態調査
小林孝一郎 (富山赤十字病院)
- 1-E-14 経鼻イレウスチューブ挿入を拒否し、鎮静を希望したがん性腹膜炎の 1 事例
松田良信 (市立芦屋病院 緩和ケア内科)
- 1-E-15 終末期患者の精神的・社会的なケア向上にむけて
—デスカンファレンス・多職種カンファレンスの分析から
共田久美 (神戸労災病院)
- 1-E-16 「DNAR 指示」に対する看護師の悩み・困難感
山口ひろみ (神奈川県立足柄上病院 看護局)
- 1-E-17 呼吸器病棟でのデスカンファレンスの実施が看護師に与える影響
佐藤直子 (東北医科薬科大学病院)

Group 5-4 ポスター演題【コミュニケーション/意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング】 16:10~17:10

- 座長：加藤理香 (箕面市立病院 がん診療推進部) ◆393
- 1-H-01 夫婦間で相反する治療選択に対する支援
森麻里子 (明和病院)
- 1-H-02 一般病棟における対話を通じたデスカンファレンスの試み
松村優子 (京都市立病院 看護部)

- 1-H-03 沖縄本島と離島の病院で治療した患者の意思決定支援
—緩和ケア認定看護師間の連携について振り返る
松下倫子（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）
- 1-H-04 最善の医療とは何かを共に考えた事例から考察—患者と共に歩む意思決定のプロセス
野木みほ（福島労災病院）
- 1-H-05 「家族のためにできるかぎり治療を頑張りたい」思いをどう支えるか
—緩和ケアチームによる意思決定支援
前川礼子（岡山済生会総合病院 看護部）
- 1-H-06 血液がん患者へのアドバンス・ケア・プランニングに対する医療者の困難感に関する文献検討
藤本実希（関西学院大学大学院 人間福祉研究科）